

国連UNHCR協会 活動報告2024

ANNUAL REPORT 2024



JAPAN FOR



UNHCR

国連UNHCR協会

難民を守る。難民を支える。 わたしたちは、国連UNHCR協会です。

2024年の活動の一部をご紹介します

国連難民支援キャンペーン

全国 **1239か所** で
国連難民支援キャンペーンを実施しました

企業・団体からのご支援

5100以上 の企業・団体の皆様から
ご支援をいただきました

第19回難民映画祭2024

オンライン鑑賞、劇場鑑賞、オンライン
セミナーのハイブリッドで開催し
のべ **4025人** にご参加いただき、
「寄付つき鑑賞」から集まったご寄付は、
3,046,000円 になりました

遺贈・相続財産からのご支援

1261件 の資料請求および
お問い合わせをいただきました



ユ・エヌ・エス・シー・アール

UNHCRとは —— UNHCRは
国連難民高等弁務官事務所(The
Office of the United Nations High
Commissioner for Refugees)の
略称で、1950年に設立された国連
の難民支援機関です。

紛争や迫害により故郷を追われた
難民・国内避難民を国際的に保護・
支援し、難民問題の解決に対して
働きかけています。1954年と
1981年の2度にわたり、ノーベル平
和賞を受賞。

緒方貞子さんが、第8代国連難民高
等弁務官として活動を率いました。
国連UNHCR協会は、UNHCRの
日本における公式支援窓口です。

国連UNHCR協会の使命

- UNHCR公式支援団体として、
日本社会と難民や最前線で援助
活動に従事する人々をつなぎます。
- 難民および難民支援の国連および
関係機関に向ける日本社会からの
物心両面の貢献を格段に高めます。

上記の使命を果たすために以下の
活動を行っています。

資金調達活動

難民援助活動の資金確保に取り
組み、世界の人道支援に最大限貢
献する。

コミュニケーション活動

日本社会における難民問題の認
知と理解を拡大し、共感と連帯の
輪を広げる。

国連UNHCR協会の行動
原則など、詳細は右記か
らご覧いただけます。



UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の活動を支えてくださっている日本の皆様に感謝申し上げます

2024年を通じ、難民とともに歩んでくださりありがとうございます。
2024年は、強制移動や悲劇に見舞われながらも、重要な希望の瞬間もあり、際立って対照的な年でした。紛争や暴力、迫害で数百万人が家を追われるのを目の当たりにした一方で、私たちは難民の勇気と逆境を乗り越える力を称えました——パリのオリンピック・パラリンピックに出場した難民アスリートたちはそれを体現し、私たちの心を揺さぶりました。暗闇の中でさえ、希望はあるのです。

UNHCRを信頼し、ご支援くださりありがとうございます。そのおかげでUNHCRは日々命を救い、多くの場合、直ちに全てを捨てて避難するしかなかった人々に寄り添うことができるのです。

2024年だけで、UNHCRは計43の人道的な緊急事態に対応しました。皆様の寛大なご支援がなければ、そうした難民への援助は不可能でした。

日本の全ての支援者の方に、特別な感謝の念をお伝えします——最も優先度の高い援助活動に充てることができ、柔軟に活用できる活動資金の調達にご貢献いただいたからです。特定の国やプロジェクトを指定しない、こうした柔軟なご寄付のおかげで、UNHCRは全ての避難を強いられた人々と無国籍者のニーズに、迅速に対応し続けることができます。

今年UNHCRは、避難を強いられた人々の保護・支援に従事して75年目を迎えます。私たちは不確かで不安定な時代を生きています——しかし、私たちUNHCRに頼るほかない人々を守ることは、かつてないほど切迫し、必要とされている責務です。UNHCRは、家を追われた人々と日々共にあり、止まることなく活動を続けます。そして、それは皆様のご協力なしにはできないことなのです。皆様のご支援に、改めて感謝いたします。



南スーダン国境の受け入れセンターにて、スーダンから避難してきた家族と

第11代国連難民高等弁務官
フィリップ・グランディ

Philippe Grandjean

1億2260万人——。世界では日本の総人口に匹敵する数の人々が、止まない戦争や暴力行為による情勢の悪化、そして気候変動により、故郷を追われる事態となりました。レバノンでの軍事攻撃、政情不安に苦しむシリア、紛争解決の見通しが立たないうえに大洪水で甚大な被害を受けたスーダンやイエメンなどでは、多くの女性と子どもを含む人々が避難を強いられました。戦争が始まってから3年目を迎えているウクライナでも厳しい状況は続き、2024年も家を追われる人の数は増加の一途を辿りました。

中長期化する紛争で、選択肢もないまま何年も厳しい避難生活を強いられる人も少なくありません。なかなか報道されない世界各地の難民危機の実情とUNHCRの援助活動、そして皆様からのご支援がどのように活用されているかをしっかりとお伝えし、分かりやすく質の良い情報をお届けすることが、当協会の責務です。

度重なる自然災害などで日本国内も厳しい状況にあるなか、多くの日本の企業・団体・個人の皆様がUNHCRの援助活動を力強く支えてくださっています。皆様の温かいご協力に、深く御礼申し上げます。

この「国連UNHCR協会 活動報告2024」を通じて、皆様のご支援のおかげで取り組むことができた2024年の援助活動の成果をご報告させていただければ幸甚です。皆様からお預かりしたご寄付によって、昨年も世界各地で多岐にわたる緊急事態に迅速に対応することができました。

「難民を支えたい」という日本の皆様の温かいお気持ちを、世界で家を追われた人々に届けるため、これからも職員一同努力を重ねてまいります。今後も皆様と一緒に、日本から難民を支えていけますなら嬉しい限りです。どうか引き続き温かいご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人 国連UNHCR協会
理事長 青井 千由紀

青井 千由紀



表紙写真について

避難先のパキスタンからアフガニスタンへ帰還してきた4人の子の父・ジャラットさんと家族。UNHCRからの現金給付金で食料雑貨店を開き、懸命に働いて家族を養えるようになりました。「もしこの支援がなければ、私は物乞いをしなければならなかったでしょう」と語ります。

暴力や気候変動が激化した2024年。UNHCRは43の緊急事態に対応*

皆様のご支援のおかげで、世界各地で激化する紛争や気候変動の影響で避難を強いられた人々に、迅速な支援を届けることができました。

UNHCRは緊急事態に即時対応できるよう、危機への事前準備や人員配備の体制を強化し、政府・パートナー団体と共に徹底した現場主義のもと、命を守る緊急援助活動に尽力しました。

※17の継続中の危機と26の新たに宣言された緊急事態を含む

レバノン

➡ **120万人**が軍事攻撃により避難
45万人がシリアに帰還

レバノン全域で緊急支援体制を拡大。攻撃があった初月に25万8000人に備蓄していた緊急物資のマットや調理器具セットを届けたほか、45万3000人以上に現金給付支援を実施。医療支援として救急車10台や10万人分の緊急医療キットを提供しました。



イスラエルからの攻撃で破壊された住宅の様子を確認するレバノンの親子

ウクライナ

➡ **350万人**が止まない攻撃で国内避難
680万人が国外で避難生活

ロシアからの攻撃が激化するなか、様々な緊急対応・保護・長期的な復興を目指した支援に尽力し、61万人に心理社会的支援や法的支援、15万人以上に緊急シェルターや避難所の提供を行ったほか、52万人以上に医療費や生活費を賄う現金給付支援を行いました。



ウクライナ・ドニプロの避難所となっている学校に毛布などの援助物資を届ける様子

スーダン

➡ 深刻化する紛争で
880万人が国内避難民
320万人が難民・帰還民となる

紛争地域に閉じ込められてしまった人々への人道支援や、難民キャンプにおける保健・水・衛生支援、6万9000人にシェルター支援を提供。国境にたどり着いた4万人を安全な場所へと避難させたほか、既存の難民キャンプ・居住地の拡張や新設に取り組みました。



南スーダンに逃れたスーダン難民のオサムさんは、UNHCRから毛布や寝袋などの援助物資を受け取った

シリア

➡ **110万人**が反体制派と前政権の戦闘により避難
540万人が周辺国に逃れる

シリア全土で保護・シェルター・援助物資の提供から難民キャンプの管理などを主導。国境のモニタリングや帰還民の支援、戦闘の影響を受けた3万9500人に援助物資を届けたほか、114のコミュニティ・センターを支援しながら4万8400人に法的カウンセリングや心理社会的支援、2万6900人に現金給付支援を実施しました。



トルコとシリアの国境で、シリア帰還民の家族と話すUNHCR職員

ベネズエラ

790万人が 暴力・政情不安で越境

越境と往来が続くベネズエラで、UNHCRは各国境地帯での支援を強化し、受け入れ体制を拡大。ベネズエラ国内でも65万人以上に対し、個別の法的支援や心理社会的支援等を含めた多岐にわたる支援を提供しました。



世界で最も危険といわれる、パナマとコロンビアの国境にあるジャングルを徒歩で移動する家族

西・中央・東アフリカ

該当地域 *西・中央アフリカ: チャド・ニジェール・ナイジェリア・カメルーン・マリ等
*東アフリカ: プリンジ・エチオピア・ルワンダ・ソマリア・スーダン・南スーダン等

490万人が洪水で被災(西・中央) 370万人が洪水で被災(東)

チャド、ニジェール、ナイジェリアなど西・中央アフリカ地域で洪水被害を受けた約45万4000人に緊急援助物資、13万6000人以上に現金給付支援を実施。洪水で身分証を失った2万6000人に書類の再発行を行いました。東アフリカ地域では、紛争が続くなかで洪水の被害が発生したスーダンで、66万8000人以上に安全な水を提供。ソマリアでは被災者17万3000人が緊急援助物資、5万9000世帯が防水シートを受け取りました。



洪水被害を受けたチャドの難民キャンプで、土壌の上を歩くカメルーン難民の親子

コンゴ民主共和国

700万人が 非政府武装組織との戦闘で 国内で家を追われる

北キヴ・南キヴ州で9万5000人以上にシェルターの設置・修繕を行い、蚊帳・毛布・調理鍋など重要な援助物資を4万5000人に配布。また女性・女兒への支援として1万6800人以上に月経用の衛生キットを配布し、性暴力被害に遭った3万4700人以上に医療・心理社会的ケアを実施しました。



北キヴ州ゴマの国内避難民キャンプに7日間かけて徒歩で避難してきた母ワマリアさんと双子の赤ちゃん

アフガニスタン

14万5000人が 異常気象による洪水で被災

洪水発生当初から事前に備蓄していた毛布、給水容器などを含む2200以上の緊急キットを配布し、被災した人々に918張の緊急テントと2600個の衣料品セットなどを届けました。また被災地域の4700世帯以上が、家屋の修理費用などを補う現金給付支援を受けました。



洪水被害を受け、UNHCRのシェルター支援を受けたアラムさん一家

イエメン

10万世帯が 豪雨による洪水で被災

被災した2万7500世帯に緊急援助物資、1万2500世帯に緊急シェルター、7700世帯にシェルターを補修するための資材を提供しました。また長期的な解決に向けた取り組みとして、避難先から故郷に戻った人々の自宅の再建支援を実施し、地域施設などを補修しました。

ミャンマー・バングラデシュ

100万人が内戦激化と 暴力の拡大で新たに避難

UNHCRはミャンマー国内で62万5000人を支援し、36万人に援助物資、7万3500人にシェルターを提供、1万8200人の脆弱な世帯に現金給付支援を実施。バングラデシュからインドネシアへと船で逃れたロヒンギャ難民には、地元当局に働きかけ身分証明書の発行などを行い、難民認定を受けられるようサポート。



危険な航海を経てインドネシアのアチェに到着したロヒンギャ難民



イエメン・サアダの洪水被害に遭った国内避難民の居住地

2024年、UNHCRの届けた支援と支援を受けた人々の声をお届けいたします

「家が完成したら招待します」 アラファさん／スーダン



アラファさんはスーダン・ハルツームの戦闘を逃れ、8人の家族と15日かけて同国のゲダレフ州に避難しました。UNHCRから現金給付支援を受けて、家族8人が住めるように家の拡張作業に取り組んでいます。2024年11月、2回目となる現金の給付日に一番に並んだアラファさん。給付金を受け取ってとても喜んでいました。UNHCRのスタッフに、「1回目の給付金は、家作りのために4日で使い切りました。家が完成したらまた招待しますよ」と誇らしげに語りました。

「食事などの支援に感謝しています」

ナタリアさん／ウクライナ⇒モルドバへ避難

「朝6時に爆撃が始まり、爆発音と人々が叫んでいるのが聞こえました。ミサイルが方々に飛んでいて、本当に恐ろしかったです。何時間も停電し、夜はシェルターで過ごしました」。その後ナタリアさんは家族で隣国のモルドバへ避難し、UNHCRの支援する難民宿泊センターで暮らしています。「このセンターはとても良くて、スタッフも素晴らしいです。食事も支援してもらえて、大変感謝しています」。



「嬉しくて待ちきれません」 アブドルさん／アフガニスタン



「地震で家に大きなひびが入り、1か月間テントで暮らしましたが、とても寒かったため、恐ろしかったですが家に戻りました」。2023年の地震で大きな被害を受けたアブドルさん(55歳)と家族。UNHCRの支援により、新たな家が完成間近です(2024年末時点)。「嬉しくて待ちきれません。新しい家はずっと強くて安全です」とアブドルさん。妻のクホマリさんは、家にソーラーパネルがあり夜も電気が使えると知り大喜びです。「これで夜も子どもたちが勉強できます」。

2024年、皆様のおかげで、UNHCRは世界各地で避難を強いられた人々に多くの支援を届けることができました



ウクライナで **52万1000人** に食費や医療費を補う **現金給付支援**

◀ウクライナで現金給付支援を受けたマリナさんとUNHCR職員



レバノンで **10万人** に **医薬品**

レバノンで援助物資が運ばれる様子▶



ミャンマーで **36万人** に **救援物資**



スーダンで **66万8000人** に **安全な水**



シリアで **114** のコミュニティセンターで **必要不可欠な支援** の提供



コンゴ民主共和国で **3万5000人** の **性暴力を受けた女性と女兒を支援**

510万点の援助物資を世界の備蓄倉庫から提供



毛布を受け取るヨルダン・ザータリ難民キャンプに住むイブラヒムくん



避難生活に欠かせない毛布 **140万枚**



就寝用マット **120万枚**



防水シート **69万8000枚**



蚊帳 **52万9000張**



給水容器 **58万1000個**



調理器具セット **29万3000個**

最大570万人を支援



その他の難民・国内避難民のストーリーは、左記QRコードからお読みいただけます

国連UNHCR協会 2024年度 会計報告

正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部

経常増減の部

経常収益

【受取会費】	正会員受取会費	620,000
【受取補助金等】	受取助成金*	1,448,571,514
【受取寄付金】	UNHCR寄付金	8,708,603,516
	寄付金振替額	847,299,511
	協会支援ファンド	9,515,188
	ORF寄付金	262,266
	現物供与	41,628
【その他収益】	雑収益	134,085
経常収益 計		11,015,047,708

経常費用

【事業費】	人件費(事)	724,794,275
	UNHCR支援金	8,372,920,435
	ORF支援金	209,813
	会場費(事)	4,446,561
	会議費(事)	547,449
	保険料(事)	3,720
	修繕維持費(事)	5,012,424
	制作費(事)	168,986,546
	印刷費(事)	2,458,106
	広告費(事)	250,283,589
	支払手数料(事)	160,009,122
	旅費交通費(事)	15,122,824
	業務委託費(事)	810,990,561
	水道光熱費(事)	1,847,536
	消耗品費(事)	5,631,653
	減価償却費(事)	40,287,359
	研修費(事)	163,005
	租税公課(事)	53,493
	諸会費(事)	218,500
	諸謝金(事)	1,274,940
	賃借料(事)	33,419,748
	資料費(事)	46,576
	通信運搬費(事)	248,236,487
	支払リース料(事)	213,840
	雑費(事)	290,404

* 受取助成金: UNHCR本部からの助成金

自2024年1月1日 至2024年12月31日
(単位:円)

【管理費】	人件費(管)	99,312,476
	会議費(管)	235,025
	保険料(管)	624,820
	修繕維持費(管)	706,882
	制作費(管)	77,363
	印刷費(管)	182,784
	広告費(管)	440,000
	支払手数料(管)	1,019,581
	旅費交通費(管)	360,170
	業務委託費(管)	28,854,931
	水道光熱費(管)	413,584
	消耗品費(管)	185,757
	減価償却費(管)	4,235,546
	租税公課(管)	1,861,895
	諸会費(管)	98,300
	諸謝金(管)	14,129,347
	賃借料(管)	8,722,776
	通信運搬費(管)	4,289,797
	支払リース料(管)	72,600
	為替差損(管)	115,533

経常費用 計	11,013,408,133
当期経常増減額	1,639,575

経常外増減の部

経常外収益	
賞与引当金戻入	6,175,968
経常外収益 計	6,175,968
当期経常外増減額	6,175,968
当期一般正味財産増減額	7,815,543
一般正味財産期首残高	1,004,775,324
一般正味財産期末残高	1,012,590,867

指定正味財産増減の部

使途指定寄付金受入額	847,299,511
一般正味財産への振替額	△ 847,299,511
当期指定正味財産増減額	—
指定正味財産期首残高	—
指定正味財産期末残高	—
正味財産期末残高	1,012,590,867

貸借対照表

2024年12月31日 現在
(単位:円)

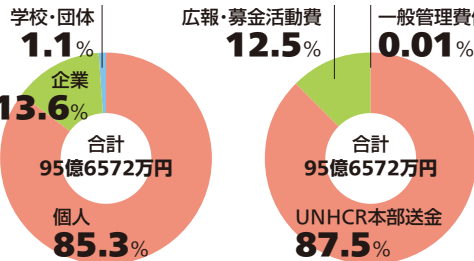
資産の部

流動資産	現金預金	1,770,427,586
	未収金	3,494,810
	前渡金	11,324,428
	立替金	104,324
流動資産 合計		1,785,351,148
固定資産		
特定資産	ソフトウェア開発特定資産	86,000,000
	退職給付引当預金	126,952,700
	特定資産 合計	212,952,700
その他固定資産	建物	11,771,950
	什器備品	321,350
	ソフトウェア	56,647,362
	ソフトウェア仮勘定	2,878,884
	敷金	17,544,869
	長期性預金	310,000,000
	その他 固定資産 合計	399,164,415
固定資産 合計		612,117,115
資産 合計		2,397,468,263

監査体制について: 国連UNHCR協会では、監事による監査とともに、外部の監査法人(EY新日本有限責任監査法人)に依頼して会計監査を受けています。ここに記載した正味財産増減計算書・貸借対照表は、公益法人会計の基準による2024年度国連UNHCR協会正味財産増減計算書・貸借対照表をまとめたものです。全文は、国連UNHCR協会ウェブサイトもしくは右記QRコードからダウンロードしていただけます。
www.japanforunhcr.org/about-us/annual-report



寄付金収入

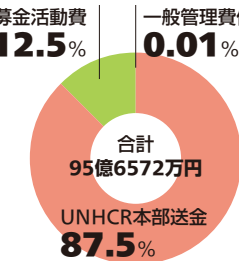


2024年も温かいご支援をお寄せいただき、ありがとうございます

皆様からお預かりしたご寄付は総額95億6572万円に達し、寄付金の99.9%を占めるUNHCR寄付金のうち約88%にあたる83億7200万円をUNHCR本部に送金させていただきました。なお支援者の内訳は上記の通りです。*

* 国連UNHCR協会では、UNHCR本部との取り決めに従い、お寄せいただいた寄付金の上限25%までを、協会の活動および運営のための資金に充当させていただいております。

寄付金の使途



負債の部

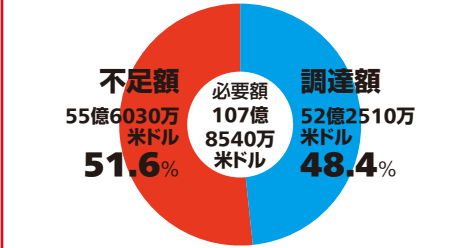
流動負債	未払金	1,197,441,097
	前受金	7,657,551
	預り金	13,110,152
	賞与引当金	35,635,896
流動負債 合計		1,253,844,696
固定負債	資産除去債務	4,080,000
	退職給付引当金	126,952,700
固定負債 合計		131,032,700
負債 合計		1,384,877,396

正味財産の部

指定正味財産	—
指定正味財産 合計	—
一般正味財産	1,012,590,867
(うち特定資産への充当額)	(86,000,000)
正味財産 合計	1,012,590,867
負債及び正味財産 合計	2,397,468,263

大幅な資金不足が依然として続いています

2024年、世界各地の紛争や迫害によって避難を強いられた人の数は1億2260万人に達しました。しかし、目まぐるしい世界情勢の変貌で、UNHCRはかつてない資金難に直面しています。UNHCRが世界各地の援助活動のために必要としていた資金107億8540万米ドルに対し、調達額は52億2510万米ドルと約48.4%にとどまり、依然として大幅な資金不足が続いています。*



* 出典: Update on budgets and funding (2024 and 2025) EC/76/SC/CRP.8

UNHCRミャンマー シトウェ事務所 所長 古川 麗 職員

私は大学卒業後、在ハンガリー日本大使館で2年間勤務し、その後イギリスの大学院に入って難民法に触れたことが、難民を意識するきっかけでした。修了後はUNHCR駐日事務所で働き、日本に庇護を求めてくる人の保護や難民認定等に携わりました。当時は毎年「難民認定ゼロ」で、難民への関心も低い時代でした。その後、欧州、中東、本部勤務を経て、2022年からミャンマー西部ラカイン州で働いています。

ラカイン州は、長年民族対立が続いている上、例年甚大なサイクロン被害にも見舞われます。ミャンマーの中でも貧しく、内戦が拡大している地域です。UNHCRは、家を追われた人々への緊急住居支援、生活物資の配布をNGOなどと協力して行っています。

無国籍者の保護も大きな仕事の一つです。ロヒンギャの人々は、何世代にもわたりこの国で暮らしているが国民として認められず差別を受け、100万人以上が隣国バングラデシュでの避難生活を余儀なくされる一方、ラカイン州では約15万人が10年以上国内避難民キャンプに隔離されています。2021年、軍部の政権掌握後、国民へ様々な制限が課され、徴兵制度も始まりましたが、UNHCRは

無国籍であるロヒンギャへの強制徴兵についてモニタリングや権利擁護アドボカシーにも力を入れています。

幸い、2025年3月に発生した大地震の被害はありませんでしたが、一時停戦発表後も爆撃が続いており、職員と家族の安全にも細心の注意を払っています。

内戦激化に伴い、電気や通信は切断、物流インフラは寸断され、支援対象者へのアクセスも難しくなるなど、人道支援に大きな影響がでています。職場では故障しがちな発電機と不安定なインターネットや通じない携帯電話

に悩まされながらも、必要な方々へ迅速な支援を届けるよう、職員一同日々奮闘しています。

とはいえ、「腹が減っては戦はできぬ」。ラカイン州では、身のしまったロブスターやカニが日本より安く手に入ります。量り売りのヨーグルト屋も近くの市場で見つけました。おいしいしお腹も壊していませんが、同僚はなぜか怖がって行きません。新鮮な魚介類を



頼りながら、仲間とおしゃべりするのが気分転換です。

今までの経験で心に残っているのは、イランで活動していた時に助けを求めてきたアフガン人女性です。全身と顔半分を覆った黒チャドル姿からは分かりませんでした。両耳を切り落とされるなど苛烈な暴力を夫から長年受けていました。自宅軟禁状態からようやく逃れて警察に通報したものの、有力者

だった夫はほとんど処罰も受けず釈放されたため、報復を恐れ国境を越えてきたのです。

こうした場合、難民条約上の「難民」と認められ、庇護を求めた国(この場合イラン)でも安全確保が難しい場合、通常は「第三国定住

*」の受入国を探します。ただ、この女性は「我が子のいる故郷の近くにいたい」と望んだため、話し合いを重ね、本人の意思を尊重し、イランに住む親族等と連携して様子を見ることになりました。

*最初に保護を求めた国から第三国へ移ること

緊急性や必要性が高くても、最終判断は本人に委ねる、というUNHCRの基本姿勢が反映

された例として、DV被害の深刻さとともに強く印象に残っています。将来的な健康被害を考慮し、女性の鼻の再建手術支援も例外的に認めた上司の優しさも。

最後に、支援者の皆様の多大なご支援とご理解に心より感謝いたします。お預かりしたご寄付は、大切に活用させていただいています。内戦終結が見えないなか、不安やトラウマを抱えて暮らすミャンマーの人々が日本にもいます。もし学校やお店、職場等で見かけたら、親切にしていただけませんか。「難民問題」は遠い国のできごとではなく、実は、身近にいる人も直面している問題かもしれません。

プロフィール

茨城県出身。サセックス大学大学院修了。UNHCRスロヴェニア、コンボ、イラン、グルジア(現ジョージア)、タイ、中央アジアなどで難民保護に従事。ジュネーブ本部勤務を経て2022年UNHCRミャンマー・ラカイン州モンドー事務所所長、2023年より同州シトウェ事務所所長。

当記事の情報は、2025年4月時点のものです



国内避難民が滞在している寺の境内で、住居のニーズについて聞き取りをする様子(左端、ラカイン州/2025年)

